

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	発達支援BASEほけっと	公表日	7年 4月 1日
------	--------------	-----	----------

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10	0	十分なスペースを確保できている。	曜日によって人数が偏る。利用者が少し多いと思う。 →利用希望のニーズを可能な限り配慮しているが、スタッフの人員追加と、現有スタッフの勤務可能日の調整を積極的に行っていく。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	2		送迎時に職員が不足気味だと感じることがある。 もっと一対一で見れるようにした方が良い。 →利用希望のニーズを可能な限り配慮しているが、スタッフの人員追加と、現有スタッフの勤務可能日の調整を積極的に行っていく。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	3	車椅子の利用者も入りやすいように、スロープやエレベーターがあり、段差もありません。(2名) トイレの手洗いは改善された。	車いす利用者のトイレ介助のためのスペースが必要。 →現有トイレでの対応が難しくなってきたので、カムダウンスペースを活用し、視界の遮断を確保しつつ、安全かつ確実にオムツ交換等を行えるように対応している。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こどもの活動に合わせた空間となっているか。	9	1		
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	1		
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	3	全員が広く密に参画するように、より深く意思疎通をはかる。情報共有シートなどによる情報共有は行われている。	目標設定は全体化されていない。 →一人ひとりポジションと役割を設定し、その責務を果たすことにより全体の目標等を意識して職務を遂行することができるように努めていく。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	3		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	2		
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	6		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10	0	定期的に勉強会を行っている。 外部の研修に参加することが出来る。 資格取得の支援(勤務体制、費用等)を行っている。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	3		
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7	3	管理者を中心に、職員でアセスメントを行っている。 子供や保護者のニーズについては、情報共有シートの活用で、以前より把握できるようになった。	全ての職員が計画作成にかかわっていない。 →スタッフカンファレンスや朝礼などに加え、①観点別評価、②虐待・ハラスメント防止、③清掃・安全、④イベント・カリキュラム策定、⑤備品・消耗品等調達、⑥支援計画の)各部会を立ち上げ、それぞれの部会への参画により事業所全体の計画、個別の支援計画、各種プログラムの策定に繋がっている。
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	3		
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	3		
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	5		
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	3		
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	2	野外活動や社会科見学などを職員で立案している。(2名)	チームでの立案には至っていない。 →チームという以前に、職員一人ひとりが支援に対し受動的にならず、積極的にプログラム等の提案を行っていくとともに、その提案等がなされやすいような環境等を整えていくよう推進していく。

	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	2	年間行事を作成している。 活動の提案に基づいたプログラムの作成が行われている。 新しい取り組みを日々行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7	3	ニーズに合わせて、支援内容を取り入れている。子どもの状況に応じた活動は、ほぼ出来ている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10	0	業務前に共有や確認を行っている。 朝礼および昼礼により打ち合わせ等はできている。	→簡易なスタッフカンファレンス(引継ぎ)により、終日の予定・連絡事項や午前中の児童の活動状況等を引き継ぎとして職員間で積極的に行っていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	2	勤務体制の関係で当日中にはできないが、翌日に振り返りを行っている。	毎日の振り返りをする時間はない。 →外注の支援プログラムサービスを導入し、課題プログラムの共有を行うとともに、児童一人ひとりの支援の推移の把握ができるよう個別ファイルを更に変更・充実させていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	1	活動の様子や気になったことを記録に残し共有している。	連絡ノートや情報共有シートの記入によって、支援の在り方を考えることが出来るが、改善までつながっているかは、よくわからない。→これまでの支援の推移を確認できるファイルの導入により現状や課題の共有をさらに充実させ、児童に接した際にどの様な支援を行っていく事が望ましいかを職員一人ひとりが検討し、支援計画に盛り込んでいくように取り組む。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	3		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	2		
	25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	2		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10	0		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	4		
	28	(28~30は、センターのみ回答)	9	1		
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	6	5		
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	7	3		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	5	5		
	31	(31は、事業所のみ回答)	5	5	子ども食堂で、近隣に住む子ども達と交流している。	子ども食堂に一部の子どもが参加しているが、交流とまではいかない。→引き続き交流の促進に努める。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7	3	放課後等デイサービス協議会に参加している。	
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	8	2	送迎時にデイトの様子を伝えている。	連絡ノートは必ず記入しているが、すべての保護者と共通理解が出来ているとは言えない。→コロナウイルス等に対する国の考え方の変更に伴い、保護者会や子育てサロン(仮称)などの開催を順次行っていくこと、面談や家庭訪問等の機会を増やしていく事で共通理解を深めている。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	6			
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	10	0	契約時に説明している。		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	2			
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	2			

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9	1	相談を受けた場合は対応している。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	5		保護者会などは開催されていない。→コロナウイルス等に対する国の考え方の変更に伴い、保護者会や子育てサロン(仮称)などの開催を順次行っていく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9	1		
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10	0	定期的に行っている。 LINE公式アカウントで行っている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9	1		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	2	LINE公式アカウントを有効に使っている。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	4	月に一回子ども食堂を開催している。 近隣地域の清掃活動(ごみ拾い)を定期的に行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	2		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	2		
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10	0		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	9	1	保護者からの依頼があれば対応している。 医師の指示書は提示されていないが、アレルギーには配慮している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	3	定期的を実施している。	一度も訓練に参加できずにいる職員もいる。→有料老人ホームを含めた法人全体での避難訓練のため、実施時間に児童・職員の少ない状況である。事業所(放課後等デイサービス)独自の避難訓練を年に数回実施していき、各人の災害等に対する意識を高めていく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	2		
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	2		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	2		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	1		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。				